北海道鉄道活性化協議会　令和5年度の事業構成（案）

参考資料④

R5年度は、国の監督命令に基づく第2期集中改革期間（R3～5）の最終年であり、総括的な検証が行われる年である。
国の「地域公共交通再構築調査事業」及び道の「JR単独維持困難線区支援事業」に協調しながら、本協議会としても、持続的な鉄道網の確立に向け、**鉄道の利用促進を図る事業を積極的に展開する**とともに、R6年度以降の国の支援継続に向けた**本道鉄道網の重要性のPR**を強化する。

Ⅰ 公共交通の利用促進に向けた道民運動の展開

・運動スローガンの普及、企業等の募集
・道が実施するノーカーデーとの連携、ホームページやSNSによる情報発信　など

- 地域と連携したノーカーデーの実施
- HP・SNSによる情報発信強化

Ⅱ 鉄道をはじめとする公共交通利用者の拡大（乗車に繋がる施策の展開）

1．道民の利用拡大（利用促進の底上げ）

・家族旅行、個人・小グループ旅行など鉄道利用の呼びかけ
・出張、研修など鉄道利用の呼びかけ

2．観光客の利用拡大（道内外需要の喚起）

・来道旅行客への鉄道利用促進に向けた呼びかけ
・鉄道旅等の魅力を伝える映像等の発信
・旅行博への出展やエージェントへのPR
・有望市場に対する外国人向け周遊きっぷの販売促進

3．利用促進に向けた地域の取組との連携

・ラベンダー編成やH100形を活用した沿線PR企画等の実施
・鉄道事業者が運行する観光列車へのおもてなし
・２次交通等を含めた子ども鉄道旅体験の実施
・鉄道を維持する仕組みの構築に向けた実証事業に伴うもの

- **新規** 鉄道網を活用した道内周遊企画による利用促進　**プロポ**
- **新規** H100形ラッピングトレインの活用支援
- **見直し** ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ編成等による道内周遊ﾂｱｰへの支援　**プロポ**
- 観光分野の関係機関等と連携したPR
- インバウンド向けプロモーション（JRとの連携）
- **見直し** 沿線の協議会が実施する実証事業との連携
- 乗っとくキャンペーンの開催
- 観光列車への沿線自治体のおもてなし支援
- 子ども鉄道旅体験への支援

Ⅲ 本道における鉄道網の重要性や地域の取組等の全国への発信

・道内外における本道の鉄道網の重要性や役割のプロモーション
・ホームページによる地域の取組等の情報発信　など

- **新規** R6以降の国の支援に向けたシンポジウム等　**プロポ**
- 首都圏におけるプロモーション

北海道が実施する「道内鉄道ネットワーク評価分析（JR単独維持困難線区支援事業）」の実施への協力

R5年間事業規模　4,000万円　（北海道 **2,800万円** ＋ 市長会・町村会 **1,200万円**）

※　道・市長会・町村会以外の構成団体については、市長会・町村会の負担と同程度の協賛を行うよう努めることとし、具体的な分担や手法等については、今後各団体と協議。